

JA全農ウィークリー
WEEKLY

4面

第51回臨時総代会を開催
中期3か年計画などを承認（総務人事部、
広報・調査部）

3面

愛媛さとも広域選果場が稼働（愛媛県本部）



愛媛県四国中央市で稼働した愛媛さといも
広域選果場(3面)



研究交流の協定書を手に握手を交わす後
藤和雄山形県本部長⑥と高橋幸司鶴岡工
業高等専門学校長(7面)



中期3か年計画などを承認した第51回臨時総代会(4面)

- 2 「未来ある村 日本農泊連合」の
結成記念シンポで神出理事長が講演
(くらし支援事業部)

新生「(株)エコープ近畿」がスタート (くらし支援事業部)

- ### 3 米の鑑定技術競うJAグループ 全国農産物鑑定会開催(米穀部)

- ## 5 全農の自己改革状況は計画どおり (広報・調査部)

- ## 6 兵庫、大阪の農高で「酪農の夢」出張授業 (酪農部)

「とくしまマラソン2019」で応援活動
(徳島県本部)

- 7 全国サクランボ研究大会山形県大会を
開催(山形県本部)

山形県本部・鶴岡高専が研究交流で 協定(山形県本部)

- ## 8 「農協珈琲」を発売(協同乳業(株))

JAタウンショップ紹介

JA上士幌町(北海道)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

カーリング男子日本代表に
「ニッポンの食」を提供(広報・調査部)

News!



「未来ある村 日本農泊連合」の結成記念シンポで神出理事長が講演

労働力支援を核とした地域農業振興を語る

くらし支援事業部

シンポジウムで講演する神出理事長。基調講演ではノンフィクション作家の島村菜津さんも講演



農泊を進める「未来ある村 日本農泊連合」の結成記念シンポジウムが3月16、17日、大分県宇佐市で開かれました。シンポジウムでは全農の神出元一理事長が「地域農業の振興を核にした地方創生の取り組み—JA全農の挑戦—」と題し講演しました。

「未来ある村 日本農泊連合」は日本の農泊の先駆者であるNPO法人「安心院町グリーンツーリズム研究会」（大分県宇佐市）が中心となって、日本全国へ農泊を進めていくために結成された組織です。同連合は日本において、長期休暇の取得を義務付けるバカンス法の制定を求めています。

2日にわたって開催されたシンポジウムでは、全国から関係者約600人が集まりました。石破茂元地方創生担当相が「頑張れ未来ある村」と題した特別講演を行いました。また、基調講演では全農の神出理事長が労働力支援を核とした地域農業振興について講演し、農泊が農村に新たな消費や雇用を生み出したり、労働力支援のきっかけになる、農村が都市住民の教育、心の安定の場としても大切ではないかと語りました。

同連合には現在までに全国約30の団体が参加しており、全農も趣旨に同意し、協力することとしています。

News!



新生「株式会社エーコープ近畿」がスタート

株式会社Aコープ京都と合併、近畿6府県域に拡大

くらし支援事業部



新会社のスタートに当たり抱負を語る高崎社長



お客さまでにぎわう「JAファーマーズ・たままみ和田山」（昨年10月開店）

株式会社エーコープ近畿と株式会社Aコープ京都が4月1日に合併し、近畿地区2府4県（三重・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山）を営業エリアとする新生「株式会社エーコープ近畿」としてスタートしました。

両社の合併で、近畿地区

におけるAコープ店舗事業の規模拡大と経営基盤の強化を図り、農産物直売所併設の新業態店舗（JAファーマーズ）の新店を進め、生産者と消費者を安心で結ぶ「懸け橋」機能を強化します。

新会社のスタートに当たり、大阪市内で開催された株主総会で、高崎淳社長は「今回の株Aコープ京都との合併を機に、気持ちを新たにし、JAファーマーズ出店とさらなる事業拡大に向け業務に邁進して行く」と力強く

意気込みを語りました。

新会社の資本金は1億円、2019年度の売上高計画は37店舗で約330億円、JAファーマーズ店舗は、大阪府の「らぽーと和泉店」、兵庫県の「たじまみ和田山」に続き、他府県域でも展開していきます。安全・安心な地元産、県産、国産にこだわった商品政策で、「お客様満足日本一」「従業員満足・働きたい職場日本一」を目指し、JAグループで連携した売り場作りと社内改革に取り組んでいきます。



愛媛さといも広域選果場が稼働

J Aの枠越え系統共販率向上と生産面積拡大へ

愛媛県本部



愛媛さといも広域選果場で行われた初選果



愛媛県産さといもは、「女早生」を系統選抜した「愛媛農試V2号」をJAブランド「伊予美人」（全農商標）として販売促進活動を進め、東予地区全域で栽培面積が拡大しています。一方、各JAの選果基準の違いから品質・出荷ロットのバラツキ、

愛媛県本部は、県特産品さといも「伊予美人」の主力産地である東予地区4JAが参加する広域集出荷施設「愛媛さといも広域選果場」を四国中央市に建設し、3月22日から稼働しました。

小規模選果施設での選果対応能力が課題になっており、平成27年度から愛媛県本部と東予地区の5JAが共同選果モデル事業を開始し、選果基準の統一化やJA間格差の是正などを行ってきました。

このような中、産地収益力強化支援事業（産地パワーアップ事業）を活用し、さといもの選果・選別・包装機能と直販機能ならびに芋分離・根切り機能を具備した同選果場を設置しました。処理能力は日量35ト、年間約3000トの出荷を計画しています。

JA枠を超えた広域選果場として、東予地区の系統共販率の向上と生産面積の拡大と県本部による生産から販売を一元化することで、生産者の所得向上を目指していきます。



米の鑑定技術の腕競い合う

各府県代表が参加しJAグループ全国農産物鑑定会

米穀部



成績優秀者として表彰された皆さん(前列)

成績優秀者 5人は次の通りです。

最優秀賞

倉本昌人さん(新潟県JAひすい)

優秀賞

倉田智博さん(熊本県JAあまくさ)

松尾幸助さん(長崎県JAながさき県央)

水野行則さん(岐阜県JAひがしみの)

日比野誠司さん(岐阜県JAにしみの)

全農は、農産物検査技術の向上と検査員相互の交流を目的に平成15年度から全国農産物鑑定会を開いています。平成30年度も千葉市のJA共済幕張研修センターで開き、全国37道府県から80人の代表選手が水稻うるち玄米35点、水稻もち玄米5点を鑑定し、技術を競いました。

全国鑑定会独特の緊張感の中、選手は普段は検査する農産物検査員の皆さまには、JAグループ農産物検査への信頼の確保、検査技術の維持・向上のために、リーダーとして活躍されることを期待します。

全農は、農産物検査技術の向上と検査員相互の交流を目的に平成15年度から全国農産物鑑定会を開いています。

今回は2人の満点獲得者が出るなど、多くの選手が高得点となり、順位は鑑定時間の短さにより決定するという熱戦となりました。

全農と全国JA農産物検査協議会は3月8日、「第16回JAグループ全国農産物鑑定会」を開き、各府県の代表が一堂に会し鑑定技術を競いました。

中期3か年計画などの 議案を承認

第51回臨時総代会を開催



中期3か年計画などを承認した第51回臨時総代会

全農は3月26日、都内で第51回臨時総代会を開き、「3か年計画ならびに平成31年度事業計画」などの議案が、原案通り承認されました。

【総務人事部、広報・調査部】

議案説明に初めてビデオを活用

開会あいさつで長澤豊会長は「本年は新たな『中期3か年計画』がスタートする勝負の年であると認識している。『すべては組合員のために、そして消費者、国民のために』という基本的考え方のもと、JA支援や生産基盤維持拡大といった重点実施策を着実に実践し、全農改革の完遂に全身全霊で挑戦していく覚悟だ」と述べました。

今回初めての試みとして、中心的議案である中期3か

年計画の説明は、自己改革の歩みとともにまとめられたビデオの上映により行いました。



全農の自己改革および中期3か年計画について説明するビデオ

自己改革記事集を配布

全農では、全農の自己改革に関する日本農業新聞の記事を集めた「JA全農自己改革記事集」を制作し、総代会の出席者に配布しました。



全農の自己改革に関する日本農業新聞の記事を集めた「JA全農自己改革記事集」

終了後に記者説明会も

臨時総代会終了後には、JAビルで記者説明会を開き、新聞社やテレビ局など19社27人が出席しました。臨時総代会同様、ビデオで自己改革および中期3か年計画について概要を見ていただいた後、長澤会長、神出元一理事長、岩城晴哉専務、山崎周二専務が記者からの質問に答え、メディアとのコミュニケーションを深めました。



多くのメディアが出席した記者説明会

この記事集に関するお問い合わせは、広報・調査

部広報企画課(TEL: 03-6271-8055)まで。

自己改革は 計画どおり進捗



平成29年3月に組織決定した「農林水産業・地域の活力創造プラン」に係る全農の取り組みの現時点の状況は、計画どおり進捗しています。主なポイントは以下のとおりです。

【広報・調査部】

自己改革の取組状況

1. 販売事業

(1) 米穀事業

- 30年産米は、実需者直接販売125万ト(計画125万ト)、買取販売50万ト(計画50万ト)の計画達成を見込んでいる。
- JAと連携し、業務用実需者ニーズに応じた多収米等の契約栽培や、安定取引につながる複数年・播種前など事前契約を拡大した。
- 実需者や米卸等との出資・業務提携を推進するとともに、広域集出荷施設の新設をすすめている。

(2) 園芸事業

- 30年度の直接販売実績は、3380億円(計画3300億円、前年比104%)と、計画達成を見込んでいる。
- 広域集出荷施設等のインフラを整備し、農業労働力支援の強化や直販事業の拡大をはかるとともに、営農指導や販売業務などJAとの機能分担や重複機能の見直しをおこない、JA支援を強化する。

2. 営業開発・フードマーケット事業

(1) 営業開発

- 30年度は、新規取引品目の拡大(30件)、直接販売の拡大に向けた直接商談(66件)、外食企業に向けた販売拡大、グループ会社や食品メーカーと連携した商品開発(10商品)、米の多収品種の作付拡大に向けた実需者推進(数量結び付け3,500ト)、加工・業務用野菜等の新規産地開発(18産地)を実施した。

(2) フードマーケット事業

- 30年5月、国産農畜産物のオンラインショップ「JAタウン」のサイトを全面リニューアルした。
- 30年9月に広島、12月には大分に「みりみのる」の外食店舗を新規出店(累計13店舗)、31年3月にはJR品川駅構内に初の中食店舗を出店した。
- 東京、名古屋、大阪、広島、福岡など全国各地の商業施設等でJAと連携したマルシェを開催した(30年度通算46回)。

3. 輸出事業

- 30年4月に香港、8月に台湾に現地法人を設立し、30年度輸出実績は年間計画49億円の達成をほぼ見込んでいる。

4. 生産資材事業

(1) 肥料事業

- 29肥料年度の春肥からスタートした新たな共同購入では、対象銘柄を普通化成・苦土入り高度化成にまで拡大、全体では約550銘柄を25銘柄に集約し、30年秋用肥料3万ト、31年春用肥料8.3万ト、年間合計で11万トを超える予約を積み上げて入札を実施し、最も安価なメーカーから購入した。

(2) 農薬事業

- 農薬担い手直送規格は、通常規格と比較し概ね2～3割の価格引き下げを実現し、供給計画8万%の達成を見込んでいる。
- ジェネリック農薬は、35年度(2023年度)からの供給をめざして登録取得に向けた各種試験をすすめている。
- 水稻除草剤の品目集約は、28年度の431品目を30年度は340品目まで集約をすすめている。

(3) 農業機械事業

- 大型トラクターの共同購入では、標準的な4社同クラス機と比較して、生産者の購入価格を概ね2～3割引き下げ、30年度は購入目標597台を大きく上回り、853台を出荷した。

(4) 段ボール事業

- 全国標準規格段ボール箱への集約は、3品目(タマネギ、サトイモ、ピーマン)で30年3月より供給を開始し、1月末での切替数量は約83万4000ケース・規格削減率14%となっている。

(5) 飼料事業

- JA西日本くみあい飼料(株)では、30年度中に坂出工場の製造移管をおこない、倉敷・宇和島工場の2工場での合理的な製造・供給体制を整備する。
- 31年4月、本会子会社であるホクレンくみあい飼料(株)は、雪印種苗(株)と合併で配合飼料製造受託専門会社を設立する。
- カナダでは、地元穀物取扱業者と合併で輸出施設運営会社(FGT社)を設立、内陸集荷から積み出し港までの一貫物流を構築する。

News!



兵庫、大阪の農高で「酪農の夢」出張授業

日本コカ・コーラ(株)と取り組む5by20プロジェクト

酪農部

酪農部は、日本コカ・コーラ(株)と取り組む5by20プロジェクトの一環として、酪農の次世代育成のため、2月18日に兵庫県立播磨農業高校、3月15日には大阪府立農芸高校で出張授業を行いました。

13・14回目となる「酪農の夢」出張授業、学校側から開催希望をいただき、大阪府立農芸高校では約3年ぶり2回目の授業となりました。

初開催となった兵庫では秋田県新林牧場の柴田さんと滋賀県山田牧場の従業員である長崎さんが、大阪では北海道山岸牧場さくら工房の北出さんと群馬県関牧場

の関さんがそれぞれ登壇し、酪農家としての半生や酪農のやりがい、命との向き合い方などを講演しました。

両校合わせて約220人の生徒が参加し、「牛と共に生きているという話が印象的だった」「命の尊さを考えさせられた」といった感想が寄せられ、酪農への理解を深めると共に魅力を伝える授業となりました。



兵庫県立播磨農業高校で出張授業をした柴田さんと長崎さん



大阪府立農芸高校で酪農のやりがいなどを語る北出さんと関さん(左の2人)

News!



徳島県産米「あきさかり」のおにぎりとスダチ飲料でおもてなし

「とくしまマラソン2019」で応援活動

徳島県本部

「とくしまマラソン2019」が3月17日に開催され、徳島県本部は県本部長をはじめ職員30人が応援隊を結成し、ランナーへの応援活動を行いました。

応援隊はマラソンコースとなった県本部長板倉産センター前の沿道で、徳島県産米「あきさかり」の一口サイズのおにぎり1万個と徳島県産スダチ飲料「ザ・すだち」3000本を配布し、声援と拍手でランナーを熱く応援しました。

当日は朝から曇り空で、

昼前には強い風雨に見舞われましたが、懸命に走り込んでくるランナーからは、「おにぎり最高!」など好評の声をいただきました。

12回目となるマラソン大会には、県内外や海外から過去最高の1万4589人のランナーが参加しました。県本部からも多くの職員が出場し、自己ベストや完走などの目標達成を目指し、春を目前に控えた阿波路を駆け抜けました。



ランナーに声援を送りながら一口おにぎりを配布



駆け抜けるランナーに「ザ・すだち」でおもてなし



第4回全国サクランボ研究大会山形県大会を開催

品種動向、省力化に向けた栽培方法を紹介

山形県本部



品種動向や生産の事例発表が行われた研究大会(3月14日、山形県天童市で)



省力化の栽培方法を紹介した園地視察(3月15日、山形県寒河江市で)

1日目、天童市で開いた研究大会では、「サクランボ到来150年〜未来へつなぐサクランボづくり〜」をテーマに、生産技術の向上と生産振興・拡大を目指して情報交換を行いました。主産道県の研究機関担当らが、品種動向や生産の方向性について発表。特に、山形県が果樹で初めて導入する「生産者登録制度」と大玉新品種「山形C12号」の紹介は注目

され、「今後他県でも栽培できるのか」など活発な質疑応答が行われました。2日目は、天童市と東根市の生産者園地や県農業総合研究センター園芸試験場を視察しました。現在出荷に向けて動いている加温ハウス栽培や、園芸試験場が進めている省力・軽労化のための新たな生産方式について紹介がありました。生産技術を現場で生かそうと、参加者らは園主や担当者に熱心に質問していました。

全国果樹研究連合会と全国サクランボ研究大会実行委員会(事務局Ⅱ県JA園芸振興協議会・JA全農山形)は3月14日、第4回全国サクランボ大会山形県大会を開催しました。北は北海道から南は滋賀県まで、サクランボ生産者約400人が出席し、産地間の交流を深め、サクランボ産業のさらなる発展を目指すことを決議しました。



山形県本部・鶴岡高専が研究交流で協定書締結

「KOSEN版簡易ウェザーステーション」設置し、栽培管理確立と実用化を目指す

山形県本部



協定書を手に、握手を交わす後藤県本部長⑥と高橋校長

KOSEN版簡易ウェザーステーションは、同校の神田和也副校長が代表を務める全国KOSEN農業ICTネットワークが2014年から開発に取り組んできました。温度、湿度、気圧、風向、風速、雨量、日射量を計測・分析し、データをクラウドで共有。専用サイトを通じて、パソコンやスマートフォンなどで確認できます。計測の機械は太陽電池とバッテリーを備えているため、電源確保の心配もなく、露地にも対応できます。

山形県本部と鶴岡工業高等専門学校は3月20日、「研究交流と地域貢献に関する協定書」を締結しました。山形県本部の園芸産地拡大実証研修農場(山形県三川町)に、鶴岡高専が開発した「KOSEN版簡易ウェザーステーション」を設置し、気象データを基に作物の栽培管理や指導の確立と実用化を目指した共同研究を実施します。

現在、既存の気象データ観測システムは高額なため、普及していないのが現状です。鶴岡高専が開発したシステムは、高機能かつ低価格で、一般農家へ普及・販売することを目指しています。今回、県本部の農場ハウス内に11基、屋外に1基の計12基を設置しました。ハウスには、4月以降ミニトマトやパプリカなどの作付けを予定しています。

同日開いた記者会見で、山形県本部の後藤和雄県本部長は「A-1やA-2の導入によって、栽培技術の継承や新規就農者の参入に期待できる」と話しました。鶴岡高専の高橋幸司校長も「全国の革新的なモデルケースとなる。協力して成果を上げたい」と意気込みました。

青森県産生乳73%使用 「農協珈琲」新発売

酪農家の思いを込めて



関東地区スーパーで販売を始めた「農協珈琲」

協同乳業株式会社は、酪農生産者の思いが詰まった新商品「農協珈琲」(1ℓ紙パック)を3月25日、関東地区のスーパーマーケットで販売を始めました。
【協同乳業(株)】

この「農協珈琲」は、素材のおいしさにこだわったミルクのコク豊かなコーヒーです。健康な牛は良質な草から、良質な草は健康な土からと、自然循環型サイクルの酪農を大切にしている青森県の酪農家が生産している生乳を、ぜいたくに73%使用。コーヒーは、豊かな自然に恵まれたコロンビア産のコーヒー豆を使用しました。生乳、コーヒー、砂糖だけで作られていることから、素材そのもののおいしさを実感していただける商品となっています。

生産者とのつながりと素材のおい

しさを大切にした、「農協」ならではのおいしいミルクコーヒーをぜひ、お楽しみください。

商品概要

商品名:農協珈琲
種類別:乳飲料
内容量:1000ml
保存温度:要冷蔵(10℃以下)
発売地域:関東地区
希望小売価格:290円(税抜)
発売日:2019年3月25日(月)

JAタウンの農畜産物が当たる
キャンペーンを予定しています



「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報が
さらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン | 検索
クリック

JA上士幌町(北海道)



JAタウンは
こちらから



北海道の大自然の中で肥育された「十勝ナایت和牛」焼肉用をご紹介します。

「十勝ナایت和牛」は、上士幌町内で生まれ、育成、肥育された一貫生産和牛です。

その中でもA4・A5ランクだけに「十勝ナایت和牛」の称号が与えられます。厳しい条件をクリアする和牛は年間で120頭前後と極めて少なく、大変貴重なお肉です。

飼料は、町内産乾草と道内産稲など、道内産粗飼料にこだわっており、卓越した肥育技術と細やかな管理でつくられる、独特の甘みと、赤身の深い味わいは、一度食べるとやみつきになること間違いなし!

ぜひこの機会に「十勝ナایت和牛」を味わってみてください。

JA全農のインターネットショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。